



1 研究テーマ

主体的・対話的で深い学びをする児童の育成（仮）
～キャリア教育を軸として～

2 今年度の研究の柱

- ① キャリア教育とは何か知る
- ② 目指す児童像の共有
- ③ 授業の中でのキャリア教育の実践
- ④ キャリア教育全体計画（新設「未来づくり科」と関連）の作成

3 スケジュール

| 月 | 日 | 曜日 | 内容 | 担当・講師等 |
|------|----|----|---|--|
| 4 | 3 | 月 | 三委員会（初回） 「キャリア教育とは（※職員会議でも説明）」「研究の方針・流れ・分担決め」 | |
| 4月中 | | | キャリア教育を通して育てる基礎的・汎用的能力の4つの力をもとに児童の「強み（よさ）」「弱み（課題）」を各分科会（学年単位でも可※その場合専科の先生方に個別にご意見を聞く）でジャムボードにメモしていく。 | 目標部 |
| 5 | 24 | 水 | 研究全体会① 「褒めポイントを共有しよう」 ① キャリア教育目標設定のポイント ② 目指す児童像（＝キャリア教育目標）の検討 ③ キャリア教育を進めるうえでのアドバイス等 ※研究の必要性を感じられるようにするための会、方向性を一緒にするための会 | 講師 筑波大学人間系教授 藤田晃之先生 |
| 6月中 | | | キャリア教育目標の決定・掲示物作成 | 目標部 |
| 6 | 7 | 水 | 研究全体会② 「授業の中でキャリア教育を実践しよう」 ① 提案授業 ② 授業の中のキャリア教育について ③ 授業づくりについての相談会 ※夏休み前までに一度授業づくりのイメージをもってもらうための会 | 講師 元尾山台小学校研究主任 白石香澄先生 関根史朗先生 （調整中） |
| 6～7月 | | | 1学期授業観察 キャリア教育の授業を各自1本行う。 分科会で授業を見合い、2学期の研究授業に生かす。 | 校長・副校長 各分科会 |
| 6～8月 | | | キャリア教育全体指導計画（案）の作成 未来づくり科の情報収集 | 計画部 |
| 7～8月 | | | 分科会検討 研究授業について検討を行う。 | 授業部 各分科会 |
| 9 | | | 三委員会 「指導案検討会」 2学期の研究授業について各分科会から提案、研推で検討 | 授業者 授業部 |
| 9 | 13 | 水 | 研究全体会③ 基調講演「キャリア教育で変わる子ども・学校」 ※キャリア教育の意義を再確認する。研究授業に向けての意欲へとつなげる。 | 講師 文部科学省 調査官 長田徹先生 |

| | | | | |
|--------|----|---|---|---------------------------|
| 10 | 25 | 水 | 研究全体会④【研究授業①】 ① 研究授業（分科会：授業者 先生） ② 協議会 ③ 指導講評 | 講師 筑波大学人間系教授 藤田晃之先生 |
| 11 | 22 | 水 | 研究全体会⑤【研究授業②】 ① 研究授業（分科会：授業者 先生） ② 協議会 ③ 指導講評 | 講師 文部科学省 調査官 長田徹先生 |
| 10～12月 | | | 2学期授業観察 研究授業の提案をもとに各自1本授業を行う。 ※授業者と同じ学年の先生はその指導案で事前授業、授業観察を行う。 | 校長・副校長 各分科会 |
| 11～12月 | | | 研究アンケート（児童用・教員用）の作成・集計・分析 | 目標部 |
| 2 | 7 | 水 | 研究全体会⑥ 「研究のまとめ」 ① 成果と課題について ② 児童の変容について ③ 来年度の研究について ④ 来年度の研究を進めるうえでのアドバイス | 講師 世田谷区教育長 渡部理枝先生 |
| 2月中 | | | キャリア教育年間指導計画の見直し・修正（未来づくり科も明記） | 計画部 |
| 3 | | | 常置 「来年度の研究について」 ① テーマ ② 研究内容 | |

4 組織・分担

① 研究部メンバー

低学年：（1年）・（2年） 中学年：（3年）・（4年） 高学年：（6年）
五組： 専科：（図工）

② 分科会

- (1) 低学年：1年・2年・図工・養護
- (2) 中学年：3年・4年・算数
- (3) 高学年：5年・6年・音楽
- (4) 特別支援：五組、サポートルーム

教科のしぼりは、なし。1学期は個人研究。
2学期は分科会で提案を考えてそれに沿って研究を行う。

- ※1学期の授業観察（指導略案）はキャリア教育で行う。各分科会でA4裏表1枚程度の研究報告を行う。
- ※2学期の研究授業は「低+特」「中+高」の合同分科会で行う。研究授業は指導案を作成する。同じ学年の先生が事前授業を授業観察とする。同じ部会の先生は提案性を同じにして授業観察（指導略案）を行う。
- ※3学期の授業観察は、キャリア教育でなくてよい。

③ 役割 ※管野は全体の確認役となる。

| 部署 | 目標部 | 授業部 | 計画部 |
|----------------------|---|--|---|
| 内容 | ・キャリア教育目標のまとめ ・掲示物作成 ・研究アンケート（教員用・児童用）の作成・集計・分析 | ・指導案フォーマット作成、点検 ・検討会の進行 ・協議会の進行 ・研究授業のまとめ | ・キャリア教育年間指導計画の作成、見直し、修正 ・未来づくり科の事例集め ・本校版の未来づくり科の検討 |
| メンバー ★リーダー ☆サブ | ★ ☆ | ★ ☆ | ★ ☆ |



第一回の研究全体会について

日時 5月24日(水) 13:30~15:45

場所 図書室

テーマ「褒めポイントを共有しよう」

| |
|--|
| <p>第一回研究全体会 式次第</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 校長挨拶 一 研究部より 一 協議会 一 講師紹介 筑波大学人間系教授・教育学類長 藤田晃之先生 一 御講演 一 謝辞 |
|--|

| |
|--|
| <p>研究部 ~役割分担~</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プロジェクター・スクリーン・名札 () ○資料印刷・次第・ホワイトボード () ○机・椅子・お茶・ポット () ○講師依頼・連絡等 () ○協議会運営(司会・記録等) (各分科会の研究部) <p>※研究部の人数が足りない場合は分科会内で補う。</p> |
|--|

この日は、皆さんに記入していただいたジャムボードの「児童の実態」をもとに「キャリア教育目標(=子どもたちに育てたい力)」と各学年の具体的な目標を設定します。

研推として皆さんから挙げていただいた実態をもとにまとめたキャリア教育目標(仮)は以下の通りです。

【第一候補】

| 力 | 背景 |
|---|---------------------------------|
| <p>伝える 人間関係形成能力 社会形成能力</p> | 人間関係の狭さ、表現の乏しさ、リーダーシップ |
| <p>認める 人間関係形成能力 社会形成能力 自己理解能力 自己管理能力</p> | 自分や相手の個性(よさや課題も)を認める、様々な人と分かり合う |
| <p>チャレンジする 課題対応能力</p> | 苦手なこと、大きい集団に消極的、粘り強さが足りない |
| <p>つなげる キャリアプランニング能力</p> | 学びと生活や将来、働くことのやりがいへの理解 |

【その他の候補】

| 力 | 背景 |
|--|--------------------------|
| <p>気付く 自己理解能力 自己管理能力</p> | 自分に自信がない、悪いことに目が行きがち |
| <p>受け止める 人間関係形成能力 社会形成能力 課題対応能力</p> | 他者への理解、ストレスや苦手なことへの耐性が弱い |
| <p>振り返る 自己理解能力 自己管理能力 課題対応能力</p> | 自分に自信がない、学習や働くことへの意義の理解 |
| <p>めあてをもつ 課題対応能力</p> | 苦手なことに消極的、見通しが弱い |
| <p>判断する 課題対応能力</p> | 適切な判断ができない |

そして、設定したキャリア教育目標の中でも特に本校が重点を置きたい項目を選び、本校の研究テーマにしたいと思えます。子どもたちにとっても私たちにとってもよい研究にしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



第一回の研究全体会ありがとうございました。運動会もお疲れさまでした！！
協議会やその後の分科会での最終調整を経て、本校の今年度のキャリア教育目標が決定しました！

令和5年度キャリア教育目標



| | 気づく力 | 伝える力 | チャレンジする力 | つなげる力 |
|------|-----------------------|-----------------------|--------------------------|------------------------------|
| 特別支援 | 自分のやるべきことに気づくことができる | 自分の気持ちや考えを伝えることができる | 苦手なことにも取り組むことができる | 自分の周りの人たちのことをもっと知りたいと思う |
| 低学年 | ともだちのよさに気づくことができる | じぶんの おもいを つたえることができる | はじめての ことも やってみよう と する | じぶんの まわりの ひとたちの ことを もっとしりたいと |
| 中学年 | 自分らしさに気づくことができる | 自分の考えを分かりやすく伝えることができる | 始めたことが最後までやり通すことができる | 自分の役割を果たすことができる |
| 高学年 | 自分らしさや相手らしさに気づくことができる | 場に応じた伝え方ができる | どんなことでも前向きにチャレンジすることができる | 人・もの・ことのために行動することができる |

この4つの力を授業の中でも意識して指導していただければと思います。

まだキャリア教育の授業ってどう実践すれば・・・と不安な先生もいらっしゃると思います。提案授業を見ていただき、イメージをもった上で、その後、皆で相談しながら授業づくりをしたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

第二回研究全体会について

テーマ「キャリア教育の授業づくりをしよう」

日時 6月7日(水) 13:30~15:45

内容・場所 提案授業：6年2組 国語「わたしにできること」 13:30~14:15
授業検討会：図書室 14:30~15:45

※授業検討会に各教科の教科書や指導書、学習指導要領、タブレット(金)をお持ちください。

第二回研究全体会

式次第

- 一 校長挨拶
- 一 講師紹介
志茂田小学校 主任教諭
白石 香澄先生
- 一 研究部より
- 一 授業検討会
- 一 謝辞

研究部 ~役割分担~

- プロジェクター・スクリーン・名札 (.)
- 資料印刷・次第・ホワイトボード (.)
- 机・椅子・お茶・ポット・授業記録 (.)
- 講師依頼・連絡等 ()



第二回研究全体会ありがとうございました。

キャリア教育の視点での授業づくりのイメージがわいたでしょうか。





ぜひ、授業観察を積極的に見合い、キャリア教育の授業のイメージを具体化していければと思います。

1 研究主題

キャリア教育目標を意識した授業の実践
～全教科を通して～

2 キャリア教育目標

令和5年度 キャリア教育目標

| | 気づく力  気づく | 伝える力  伝える | チャレンジする力  チャレンジする | つなげる力  つなぐ |
|------|--|--|--|---|
| 特別支援 | 自分のやるべきことに気づくことができる | 自分の気持ちや考えを伝えることができる | 苦手なことにも取り組むことができる | 自分の周りの人たちのことをもっと知りたいと思う |
| 低学年 | ともだちのよさに気づくことができる | じぶんの おもいを つたえることができる | はじめての こと も やってみよう と する | じぶんの まわりの ひとたちの こと を もっと し りたいと おもう |
| 中学年 | 自分らしさに気づくことができる | 自分の考えを分かりやすく伝えることができる | 始めたことが最後までやり通すことができる | 自分の役割を果たすことができる |
| 高学年 | 自分らしさや相手らしさに気づくことができる | 場に応じた伝え方ができる | どんなことでも前向きにチャレンジすることができる | 人・もの・ことのために行動することができる |

3 今年度の研究の柱

⑤ キャリア教育とは何か知る

⑥ 目指す児童像の共有

⑦ 授業の中でのキャリア教育の実践

⑧ キャリア教育全体計画（新設「未来づくり科」と関連）の作成

← ここを進めていきましょう！

4 組織の確認

①分科会

(5) 低学年：1年・2年・図工・養護

(6) 中学年：3年・4年・算数

(7) 高学年：5年・6年・音楽

(8) 特別支援：五組(、サポートルーム※可能な範囲で)

教科のしぼりは、なし。1学期は個人研究。

2学期は分科会で提案を考えてそれに沿って研究を行う。

※1学期の授業観察（指導略案）はキャリア教育で行う。各分科会でA4裏表1枚程度の研究報告を行う。

※2学期の研究授業は「低+特」「中+高」の合同分科会で行う。研究授業は指導案を作成する。同じ学年の先生が事前授業を授業観察とする。同じ部会の先生は提案性を同じにして授業観察（指導略案）を行う。

※3学期の授業観察は、キャリア教育でなくてよい。

②研推の役割 ※管野は全体の確認役となる。

| 部署 | 目標部 | 授業部 | 計画部 |
|----------------------|---|--|---|
| 内容 | ・キャリア教育目標のまとめ ・掲示物作成 ・研究アンケート（教員用・児童用）の作成・集計・分析 | ・指導案フォーマット作成、点検 ・検討会の進行 ・協議会の進行 ・研究授業・授業観察等のまとめ | ・キャリア教育年間指導計画の作成、見直し、修正 ・未来づくり科の事例集め ・本校版の未来づくり科の検討 |
| メンバー ★リーダー ☆サブ | ★ ☆ | ★ ☆ | ★ ☆ |
| 締め切り | 6月中に掲示物・児童用アンケート作成・集計 | 1学期中に授業観察の授業報告 夏休み中に指導案検討・作成 | 1学期中にキャリア教育年間指導計画の作成、夏休み中に未来づくり科の事例集め |

5 授業観察について

①指導略案

保存場所：研究→R5年度→指導案→1学期授業観察 ※フォーマットもこのフォルダにあります。

配布：管理職と分科会のメンバーに配布、当日の授業前に廊下に5枚程度置く

②参観

- ・授業観察の日程表をもとに見に行ける授業は積極的に参観する。※分科会のメンバーのものは必ず見に行く。
- ・分科会のメンバー以外は廊下に置かれた指導略案を取り、参観する。※足りない場合は一緒に見合う。
- ・分科会のメンバー内で記録写真を撮る。※手立てに関係するものをとるとよい。

③協議会

なるべく当日の放課後（難しい場合は2、3日以内に）協議会を20分程度設ける。

※司会・記録は研推。メンバーの足りない場合は、記録は分科会内で補う。

協議会の視点：本時の目標とキャリア教育目標との関連、授業のポイント（見どころやこだわりポイント）、成果（有効な手立てについて）と課題（授業をする上での困り感などでもよい）について

④報告

A4裏表1枚程度に分科会全員の報告をまとめたものを作成する。

保存場所：研究→R5年度→研究だより ※フォーマットもこのフォルダにあります。

夕会で5分程度、分科会の協議会内容の報告を行う。

6 研究授業について

| | | | | |
|----|----|---|--|---------------------------|
| 10 | 25 | 水 | 研究全体会④【研究授業①】 ④ 研究授業（分科会：授業者 先生） ⑤ 協議会 ⑥ 指導講評 | 講師 筑波大学人間系教授 藤田晃之先生 |
| 11 | 22 | 水 | 研究全体会⑤【研究授業②】 ④ 研究授業（分科会：授業者 先生） ⑤ 協議会 ⑥ 指導講評 | 講師 文武科学省 調査官 長田徹先生 |

※授業者を決める

7 研究アンケートについて

①項目

②実施方法

全学年 forms（グーグルのアンケート機能）でとる。

③実施時期

第1回：今年は6月（来年は5月ごろ）、第2回：11月～12月



～高学年分科会 研究授業報告～

5年1組 授業者

社会科 「あたたかい土地の暮らし」

◎本時の目標

★重点キャリア教育目標…伝える力

〈授業のポイント〉

保護者とのコラボ。教科横断的な学習（国語科）。

【成果】

沖縄で生まれ育った保護者に、国語で学習したインタビューの手法を用いて質問できたこと。実社会のリアルが垣間見えた。

【課題】

もっともっと学校の外の人たちを教室に呼びたい。ソーシャルな関係づくりのための時間の確保（働き方）。



5年2組 授業者

道徳 「個性を知る」（明の長所）

◎本時の目標

★重点キャリア教育目標…◎気付く力・○伝える力

〈授業のポイント〉

教材そのものが「気付く力」と関係が深い。

【成果】

- ・自分や友達の長所に目を向けることができていた。
- ・リフレーミングを活用して、自分らしさに気付くことができた。

【課題】

- ・自分自身を見つめる時間が短くなってしまった。ルーティーン化するのも大事だが、書く活動を減らすなどして、状況に応じて変えていく必要がある。



6年1組 授業者

6年2組 授業者

国語 「私たちにできること」

◎本時の目標

提案書の構成や特徴、学習の計画について自分なりに考えようとしている。

★重点キャリア教育目標…◎伝える力・〇つなげる力
〈授業のポイント〉

教材そのものが伝える力やつなげる力と関連が深い。

【成果】

- ・伝える力との関連を意識できていた。
- ・児童が見通しをもって、主体的に目標や計画を立てて活動をすることができた。

【課題】

- ・要点のずれがあるので、そこを指導者が軌道修正する必要がある。



5年1組 授業者

音楽 「打楽器でリズムアンサンブルをしよう」

◎本時の目標

それぞれの楽器に合うリズムを選び、重ねて演奏したときの響きやリズムが生み出すよさを確かめる。

★重点キャリア教育目標…伝える力

〈授業のポイント〉

楽器の音色やリズムを聴く。友達とのアンサンブルを聴く。言葉で伝え合うとともに音で伝え合う。

【成果】

- ・楽器の組み合わせを考えたり拍に合わせてリズムを打とうとしたりしていた。
- ・楽器との「対話」楽器での「会話」ができていた。
- ・グループ内のバランスが、担任から見てもよかった。(事前に相談にのっていただきました。)

【課題】

- ・音楽科のねらいはよくわかったが、キャリア教育の4つの力を音楽科のねらいとどうリンクさせていくか、精査していく必要がある。
- ・実技教科で毎回行うのは難しい面もあるが、個人でふりかえりをする場面をつくることも考えていく。



～高学年分科会のまとめ～

○教科の縦の繋がり、他教科との横のつながりを意識しながら単元計画を立てていく。

○グループ活動では、指導者の意図的な調整が効果的である。(リーダーの配置、メンバーのバランスなど)

○ねらいと4つの力をどうリンクさせるか今後も研究が必要である。

○講師、教材、活動などの魅力により児童の主体性が高まり、目標への達成度にも影響する。今後も児童が興味・関心をもてる授業づくりを皆で共有し、子どもたちの活動を充実させたい。



～低学年分科会 研究授業報告～

1年2組 授業者

図工 「むぎちゃんのおともだち」

◎本時の目標 身近な動物の姿をきっかけに自分の表したいものを材料の使い方や表し方を工夫して表す。

★重点キャリア教育目標…伝える力

〈授業のポイント〉・使用したことのある材料を用意する ・作品鑑賞の場の用意

【成果】

- ・作品を掲示することにより全校で鑑賞できることがよい。
- ・材料の使用に自由度があり、子供たちが思い思いに使うことができていた。

【課題】

- ・自分の作りたいものに合わせられるよう、色紙の大きさの種類があった方がよかった。



2年2組 授業者

生活 「とび出せ！町のたんけんたい」

◎本時の目標 町探検で見つけた中から、みんなに伝えたいことを考えて表現する。

★重点キャリア教育目標…つなぐ力

〈授業のポイント〉

- ・目的意識を持たせたグループ活動 ・児童の思いを生かした活動

【成果】

- ・発表したいという思いから、ポスター作成のレイアウト等も児童の思いを生かした活動ができた。
- ・グループの中で助け合いながら文章で表現することができた。

【課題】

- ・児童が一番伝えたいことを、分担などではなく自由に書かせることで、より思いが生かされるはず。



1年2組 授業者

教科 「たのしかったことを つたえよう」

◎本時の目標

★重点キャリア教育目標…伝える力

〈授業のポイント〉

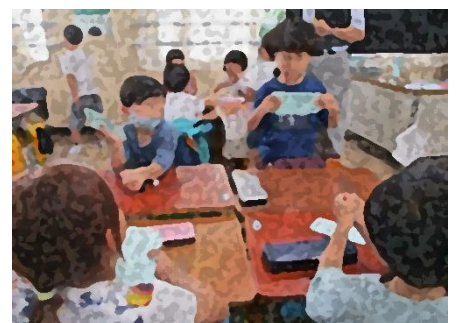
- ・グループ活動を通して、自分の考えを伝える。

【成果】

- ・ハンドサインを用いて、友達の考えに対して共感の気持ちを表した。

【課題】

- ・低学年でのICTの活用をどのようにしていくかが難しい。



2年1組 授業者

国語科 「こんなもの、見つけたよ」

◎本時の目標 友達と文章を読み合い、感想を伝えることができる

★重点キャリア教育目標…伝える力

〈授業のポイント〉

- ・皆が感想を伝えることができる話型の提示
- ・座席の工夫

【成果】

- ・作文の添削指導に力を入れて、分かりやすい文章が書けるようになったことで、感想の伝え合いが活発にできた。
- ・話し合いに自信のない児童も板書を見ながら、繰り返し話すことで、話すことに慣れてきた。

【課題】

- ・同時進行でペアでの話し合いが行われるので、見取るのが難しい。



1年1組 授業者

生活科 「げんきにそだて わたしのはな」

◎本時の目標

あさがおの変化や成長の様子に関心をもって、すすんで関わるができる。

★重点キャリア教育目標…伝える力

〈授業のポイント〉

- ・気付きを交流する環境づくり
- ・多様な道具の用意

【成果】

- ・自分で表現方法を選べるのが「チャレンジ」意欲につながる。
- ・話しながら観察できる場で、自然に伝えあうことができていた。

【課題】

- ・6年生に伝える等、表現する場がもっとあると「伝える」力がつく。



まとめ

- ・子どものためにたくさん準備して目標に迫っていた。教員ががんばろうとすると、子どもはついてくる。
- ・キャリア教育とは？
「問い」の残る協議会：2学期は少しクリアにしたい。



～特支分科会 研究授業報告～

五組① 授業者

国語科 「しょうかいしよう」～お気に入りの絵本を紹介しよう～

◎本時の目標 お気に入りの場面を選び、紹介するための文や絵をカードにかくことができる。

★重点キャリア教育目標…◎伝える力 ○つなぐ力

〈授業のポイント〉

自分の好きなものをテーマにすることで、学びに向かう意欲を継続させ、主体的に取り組めるようにする。

【成果】

- ・児童の実態に合っていた。いろいろな活動を取り入れることで集中が持続できていた。
- ・板書が分かりやすく、児童が見通しをもって取り組んでいた。

【課題】

- ・発表をすることや、発表を聞くことに課題のある児童が多い。丁寧に繰り返し指導していく必要がある。



五組② 授業者

国語科 「すきなものを紹介しよう」

◎本時の目標 すきなものについて、しらべてまとめることができる。

★重点キャリア教育目標…◎伝える力

〈授業のポイント〉

自分の思いや考えを相手に伝えるため、すきな理由を挙げさせる。

【成果】

- ・はじめに見本を見せることで、児童が見通しをもつことにつながった。

【課題】

- ・児童にとって難しい言葉が多かった。伝わりやすい言葉を工夫していく必要がある。



五組③ 授業者

国語科 「すきなものを紹介しよう」

◎本時の目標 紹介したいものについて、図を用いて詳しく書くことができる。

★重点キャリア教育目標…◎気付く力・○チャレンジする力
〈授業のポイント〉

自分の好きな物を相手に伝えるために必要な情報を考え、まとめていく。

【成果】

- ・図を使ってまず自分の考えを整理させていたのが良い。一枚の中に必要な情報を入れることで、考えさせる活動にもなる。
- ・見本があり、見通しがもてた。これまでの学習の積み重ねも感じられた。

【課題】

- ・文章で書くことが難しい児童が多い。個別の力をつけていくことも必要。



五組④ 授業者

国語科 「すきなことを紹介しよう」

◎本時の目標 筋道を立てて、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。

★重点キャリア教育目標…◎伝える力
〈授業のポイント〉

自分の思いをもって相手に伝えるために、実際に経験・体験したことをテーマにする。

【成果】

- ・スピーチ形式に近い発表の仕方が良い。
- ・それぞれに好きな物を調べることができていた。力のある児童が多いので、掘り下げて力をつけさせる。

【課題】

- ・他の児童の進捗状況など、板書して共有すると良い。個人作業にならないよう工夫していく。



～特支分科会のまとめ～

○異学年で関わり合いながら学ぶ発表の場を工夫しながら、単元計画を立てていく。

○主体的に取り組むための工夫として、今後も自分自身に関わりのあることや身近な人をテーマに学習をすすめていく。

○一人一人の伝える力をつけさせていくことは、今後も研究が必要である。

○学習することに苦手意識のある児童が多いが、見通しやゴールイメージをもたせ、チャレンジする力をつけていきたい。



1学期の校内研究そして授業報告ありがとうございました。

キャリア教育の視点での授業づくりについて成果や課題を2学期に生かしていければと思います。

夏休みに研究授業の案を各分科会でご検討ください。

9月13日に文部科学省調査官長田徹先生のご講演を予定しています。そこで1学期に出た疑問についてご質問いただき、2学期の実践に生かしていただければと思います。

1 研究主題

キャリア教育目標を意識した授業の実践
～全教科を通して～

2 キャリア教育目標

令和5年度 キャリア教育目標

| | 気づく力  気づく | 伝える力  伝える | チャレンジする力  チャレンジする | つなげる力  つなぐ |
|------|--|--|--|---|
| 特別支援 | 自分のやるべきことに気づくことができる | 自分の気持ちや考えを伝えることができる | 苦手なことにも取り組むことができる | 自分の周りの人たちのことをもっと知りたいと思う |
| 低学年 | ともだちのよさに気づくことができる | じぶんの おもいをつたえることができる | はじめてのこともやってみようとする | じぶんのまわりのひとたちのことをもっと知りたいとおもう |
| 中学年 | 自分らしさに気づくことができる | 自分の考えを分かりやすく伝えることができる | 始めたことが最後までやり通すことができる | 自分の役割を果たすことができる |
| 高学年 | 自分らしさや相手らしさに気づくことができる | 場に応じた伝え方ができる | どんなことでも前向きにチャレンジすることができる | 人・もの・ことのために行動することができる |

3 今年度の研究の柱

⑨ キャリア教育とは何か知る

⑩ 目指す児童像の共有

⑪ 授業の中でのキャリア教育の実践

⑫ キャリア教育全体計画（新設「未来づくり科」と関連）の作成

← ここを進めていきましょう！

4 組織の確認

①分科会

(9) 低学年：1年・2年・図工・養護

(10) 中学年：3年・4年・算数

(11) 高学年：5年・6年・音楽

(12) 特別支援：五組(、サポートルーム※可能な範囲で)

2学期は分科会で提案を考えてそれに沿って研究を行う。

※2学期の研究授業は「低+特」「中+高」の合同分科会で行う。研究授業は指導案を作成する。同じ学年の先生が事前授業を授業観察とする。同じ部会の先生は提案性を同じにして授業観察（指導略案）を行う。

※3学期の授業観察は、キャリア教育でなくてよい。

②研推の役割 ※管野は全体の確認役となる。

| 部署 | 目標部 | 授業部 | 計画部 |
|----------------------|---|---|---|
| 内容 | ・キャリア教育目標のまとめ ・掲示物作成 ・研究アンケート（教員用・児童用）の作成・集計・分析 | ・指導案フォーマット作成、点検 ・検討会の進行 ・協議会の進行 ・研究授業・授業観察等のまとめ | ・キャリア教育年間指導計画の作成、見直し、修正 ・未来づくり科の事例集め ・本校版の未来づくり科の検討 |
| メンバー ★リーダー ☆サブ | ★ ☆ | ★ ☆ | ★ ☆ |
| 締め切り | 6月中に掲示物作成済 児童用アンケート作成済 アンケートを実施しているか 確認 夏休み中に集計 | 1学期中に授業観察の授業報告 低・特・高は済（中学年分科会は 2学期始めに必ず行う） 夏休み中に合同分科会ごとに指 導案検討・作成 | 夏休み中に各学年でキャリア教 育年間指導計画の作成、夏休み 中に未来づくり科の事例集め |

5 研究授業について

(1) 授業者について

授業者：「低+特」分科会 1年2組

「中+高」分科会 5年2組

(2) 日時について ※授業者同士で日にちを調整して決定する。

| | | | | |
|----|----|---|--|---------------------------|
| 10 | 25 | 水 | 研究全体会④【研究授業①】 ⑦ 研究授業（分科会：授業者 先生） ⑧ 協議会 ⑨ 指導講評 | 講師 筑波大学人間系教授 藤田晃之先生 |
| 11 | 22 | 水 | 研究全体会⑤【研究授業②】 ⑦ 研究授業（分科会：授業者 先生） ⑧ 協議会 ⑨ 指導講評 | 講師 文武科学省 調査官 長田徹先生 |

(3) 指導案について

研究→R5年度→指導案→研究授業・提案授業にフォーマットが入っています。

書き方については、同じフォルダの中にある 0607 研究授業の指導案を参考にしてください。

(4) 指導案検討について

- ・夏休み中にそれぞれの合同分科会で1回は必ず指導案検討会を行ってください。
- ・夏休み明けの三委員会の研究推進部でそれぞれの授業についての指導案検討を行います。その際、授業者もしくは指導案についての質問に答えられる先生が提案をお願いします。
- ・研究推進部の指導案検討後、それを踏まえて指導案の修正をお願いします。

(5) 事前授業について

指導案をもとに隣のクラスで事前授業をしてください。その際分科会の先生は参観し、その後最終の指導案検討をしてください。隣のクラスの先生はそれが2学期の授業観察となります。

(6) 事後研究について

研究授業の協議会を生かして、同じ分科会の先生方で同じ提案性、手立てなどで授業を実践してください。教科のしぼりはありません。それが2学期の授業観察となります。指導略案を作成してください。流れは研究だより4号の授業観察の部分をもう一度御確認ください。

6 キャリア教育年間指導計画について

(1) 作成について

フォーマットがキャリア教育年間指導計画のフォルダに入っています。6年生のものや参考フォルダにある他校の実践を参考に作成してください。

(2) 期限

8月31日までをお願いします。



夏休みのキャリア教育年間指導計画の作成、そして指導案検討ありがとうございました。




9月13日に文部科学省調査官長田徹先生のご講演を予定しています。

また、10月、11月に研究授業があります。それぞれの分科会で協力して研究に向けて準備や実践をすすめていきましょう。

キャリア教育目標を意識した授業の実践
～全教科を通して～

1 研究主題・キャリア教育目標

令和5年度 キャリア教育目標

| | 気づく力  気づく | 伝える力  伝える | チャレンジする力  チャレンジする | つなげる力  つなぐ |
|------|--|--|--|---|
| 特別支援 | 自分のやるべきことに気づくことができる | 自分の気持ちや考えを伝えることができる | 苦手なことにも取り組むことができる | 自分の周りの人たちのことをもっと知りたいと思う |
| 低学年 | ともだちのよさに気づくことができる | じぶんのおもいを伝えることができる | はじめてのこともやってみようとする | じぶんのまわりのひとたちのことをもっと知りたいとおもう |
| 中学年 | 自分らしさに気づくことができる | 自分の考えを分かりやすく伝えることができる | 始めたことが最後までやり通すことができる | 自分の役割を果たすことができる |
| 高学年 | 自分らしさや相手らしさに気づくことができる | 場に応じた伝え方ができる | どんなことでも前向きにチャレンジすることができる | 人・もの・ことのために行動することができる |

3 今年度の研究の柱

⑬ キャリア教育とは何か知る

⑭ 目指す児童像の共有

⑮ 授業の中でのキャリア教育の実践

← 2学期は特にここ！

⑯ キャリア教育全体計画（新設「未来づくり科」と関連）の作成

4 組織の確認

①分科会

- (13) 低学年：1年・2年・図工
- (14) 中学年：3年・4年・算数
- (15) 高学年：5年・6年・音楽
- (16) 特別支援：五組（、サポートルーム※可能な範囲で）

2学期は分科会での研究授業を中心とした研究をもとに、
各学級での指導に生かす。

※2学期の研究授業は「低+特」「中+高」の合同分科会で行う。研究授業は指導案を作成する。同じ学年の先生が事前授業を授業観察とする。同じ部会の先生は分科会の検討会の内容を生かして授業観察（指導略案）を行う。

※3学期の授業観察は、キャリア教育でなくてよい。

②研推の役割 ※ は全体の確認役となる。

| 部署 | 目標部 | 授業部 | 計画部 |
|----------------------|--|--|--|
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育目標のまとめ ・掲示物作成 ・研究アンケート（教員用・児童用）の作成・集計・分析 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導案フォーマット作成、点検 ・検討会の進行 ・協議会の進行 ・研究授業・授業観察等のまとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育年間指導計画の作成、見直し、修正 ・未来づくり科の事例集め ・本校版の未来づくり科の検討 |
| メンバー ★リーダー ☆サブ | ★ ☆ | ★ ☆ | ★ ☆ |
| 締め切り | <ul style="list-style-type: none"> ・11～12月に第二回研究アンケート実施 ・教員向けアンケート作成&実施 12月中 ・アンケートの集計・分析（冬休み中） | <ul style="list-style-type: none"> ・中学年分科会は2学期始めに1学期の授業報告を行う ・夏休み中に合同分科会ごとに指導案検討・作成→研推で9月6日（水）に提案 | <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み中に各学年でキャリア教育年間指導計画の作成（31日締め切り） ・夏休み中に未来づくり科の説明会用プレゼン作成→2学期のOJT研修会で未来づくり科について説明会を実施予定 ・令和7年度本格実施に向けての準備 |

4 次回の研究全体会

9月13日（水） 基調講演「キャリア教育で変わる子ども・学校」 13：45～15：45
 講師 文部科学省 調査官 長田徹先生
 【内容】キャリア教育の他地域の実践や「おおた未来づくり」についてのご助言、
 皆さんとの質疑応答の時間を予定しています。

5 研究授業について

(1) 日時について

| | | | | |
|----|----|---|---|---------------------------|
| 10 | 25 | 水 | 研究全体会④【研究授業①】 ⑩ 研究授業（中+高分科会：授業者 5年2組 先生） 体育「バスケットボール」（予定） ⑪ 協議会 ⑫ 指導講評 | 講師 筑波大学人間系教授 藤田晃之先生 |
| 11 | 22 | 水 | 研究全体会⑤【研究授業②】 ⑩ 研究授業（低+特分科会：授業者 1年2組 先生） 生活科「みんなにえがおをひろげよう」（予定） ⑪ 協議会 ⑫ 指導講評 | 講師 文部科学省 調査官 長田徹先生 |

(2) 指導案について

研究→R5年度→指導案→研究授業・提案授業にフォーマットが入っています。
 書き方については、同じフォルダの中にある0607研究授業の指導案を参考にしてください。

(3) 指導案検討について

- ・夏休み中にそれぞれの合同分科会で1回は必ず指導案検討会を行ってください。
- ・9月6日（水）研究推進部でそれぞれの授業についての指導案検討を行います。
 その際、授業者もしくは指導案についての質問に答えられる先生が提案をお願いします。
- ・研究推進部の指導案検討後、それを踏まえて指導案の修正をお願いします。
- ・検討後、完成した指導案を講師の先生へメール送信します。締め切りは授業日の2週間前までです。

(4) 事前授業について

指導案をもとに隣のクラスで事前授業をしてください。その際分科会の先生は参観し、その後最終の指導案検討をしてください。隣のクラスの先生はそれが2学期の授業観察となります。

(5) 分科会メンバーの授業実践について

指導案検討会や協議会等、今回の研究での話合いの中で学んだことを生かして、授業を実践してください。教科のしぼりはありません。それが2学期の授業観察となります。指導略案を作成してください。

※流れは次のページを御確認ください。

(6) 授業観察の流れ ※1学期と一部変更有(下線部)

①指導略案

保存場所：研究→R5年度→指導案→1学期授業観察 ※フォーマットもこのフォルダにあります。

配布：管理職と分科会のメンバーに配布、職員室前黒板に10枚貼る (他の人が自由にとって良い)

②参観

- ・授業観察の日程表をもとに見に行ける授業は積極的に参観する。※分科会のメンバーのものは必ず見に行く。
- ・分科会のメンバー以外は職員室前黒板に貼られた指導略案を取り、参観する。
- ・分科会のメンバー内で記録写真を撮る。※手立てに関係するものをとるとよい。

③協議会(授業実施日当日または2,3日以内に実施)

なるべく当日の放課後に協議会を20分程度設ける。

※司会・記録は研推。メンバーの足りない場合は、記録は分科会内で補う。

協議会の視点：本時の目標とキャリア教育目標との関連、授業のポイント(見どころやこだわりポイント)、成果(有効な手立てについて)と課題(授業をする上での困り感などでもよい)について

④報告(研究授業の報告書は授業後1週間以内、授業観察の報告書は最後の授業者の協議会終了後1週間以内)

A4裏表1枚程度に分科会全員の報告をまとめたものを作成する。

保存場所：研究→R5年度→研究だより ※フォーマットもこのフォルダにあります。

夕会で5分程度、分科会の協議会内容の報告を行う。

6 キャリア教育年間指導計画について

(1) 作成について

フォーマットがキャリア教育年間指導計画のフォルダに入っています。6年生のものや参考フォルダにある他校の実践を参考に作成してください。

(2) 期限

8月31日までをお願いします。

(3) 実践

作成した計画をもとに2学期以降実践を行い、年度末に来年度に向けて修正を行ってください。

特に「**おおた未来づくり**」との関連の深いものに関して、その成果や課題をもとに指導計画を見直し、修正を行っ

てください。

7 研究アンケート

(1) 第一回の研究アンケート結果

別紙の通りです。各分科会、学年、クラスの強みや弱みをもとに2学期の実践に生かしてください。

(2) 次のアンケート

- ・第二回の児童アンケートは11月下旬から12月初旬ごろ行います。
- ・教員向けの研究アンケートは12月に実施予定です。



～中学年分科会 研究授業報告～

3年1組（クローバー） 授業者

算数 「わり算を考えよう（あまりのあるわり算）」

◎本時の目標 余りと除数の関係を理解する。

★重点キャリア教育目標…伝える力

〈授業のポイント〉

・児童の実態（話すことが好き）という実態をもとに、活動しやすいようなワークシートを作成し用いた。

【成果】

- ・ほかの児童が伝えているところを見ることで、伝え方を学び、伝え方がどんどんバージョンアップしていった。
- ・プリントを用意することで、児童がどこに注目すればよいのかわかりやすく、また、それが伝えるための資料になっていた。

【課題】

・もっと観点を絞った方がよかった。



3年2組（ハート） 授業者

教科 「わり算を考えよう（あまりのあるわり算）」

◎本時の目標 等分除の計算についても、包含徐の計算の方法をもとに考え、説明することができる。

★重点キャリア教育目標…伝える力

〈授業のポイント〉

- ・これまでの学習経験を基に考えていけるよう、具体物、図、式を使うことができると伝える。
- ・全体で共有する前に、3人のグループでそれぞれの考えを共有する時間をとることで、全員が自分の考えを伝えるという活動ができるようにする。

【成果】

- ・おはじきを用意したことで、計算の苦手な児童も手を動かしながら考えることができた。また、話すことが難しい児童も、おはじきを操作した様子を見せることで、伝え合いに参加することができていた。

【課題】

- ・おはじきの扱い方をわかっている児童がすくない。話し合いに慣れていない。
→おはじきの使い方や、話し合いの仕方のデモンストレーションをはじめに見せる。
- ・全体共有で児童が話していた時、「それ何？もっと教えて」と、もっと突っ込んで聞いていってもよかった。



4年2組（スペード） 授業者

教科 「小数のしくみを調べよう」

◎本時の目標 1/100の位、1/1000の位の小数の下方の計算の仕方を考え、その計算を説明することができる。

★重点キャリア教育目標…伝える力

〈授業のポイント〉

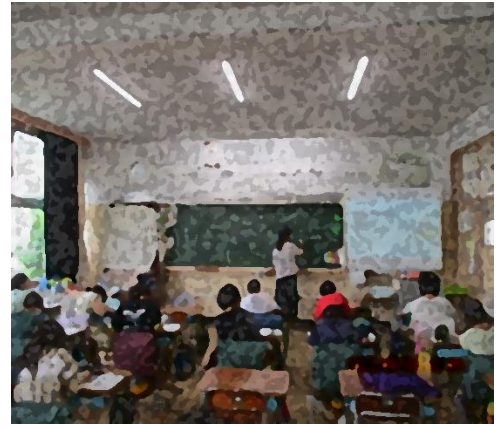
- ・全体で共有する前に、3人グループでそれぞれの考えを共有する活動を取り入れ、自信のない児童も自分の考えを安心して伝えられるようにする。

【成果】

- ・友達の考えがわかり、伝えることができた。
- ・全体共有の時、児童が自分で自分の考えを黒板に書いていて、書くことでも伝え合うことができていた。

【課題】

- ・わからないことをお互いに聞いたり、分かったときはリアクションしたりすることで、自分の考えをしっかりと相手に理解してもらえるようになると良い。
- きちんと伝えた内容が理解されることも大切だが、逆にそれが難しそうだと感じてしまう児童が出てくるかもしれないという意見も出た。



算数少人数 3年（スペード） 授業者

教科 「わり算を考えよう（あまりのあるわり算）」

◎本時の目標

★重点キャリア教育目標…伝える力

〈授業のポイント〉

- ・あまりのあるわり算の答えを確かめる式をペアや全体で話し合いながらより良い方法を考えていく。
- ・話し合いの方法や自分の考えを伝えたことでよかったところに重点をおいて授業をすすめる。

【成果】

- ・気の合う人と話し始めることで、子どもたちは楽しそうに話していた。
- ・全体での話し合いを通して、正解にたどり着くことができた児童がいた。
- ・初めに「伝え方」を伝えることで、子どもたちはスムーズに次の活動に入っていくことができた。

【課題】

- ・伝えられていたけど、内容はどうだったか？
- ・ポイントをもっと絞ってやるとよかった。



4年1組 授業者

教科 「とじこめた空気や水」

◎本時の目標 閉じ込めた空気を圧すと、体積は小さくなるが、
押し返す押し返す力は大きくなることを理解する。

★重点キャリア教育目標…伝える力

〈授業のポイント〉

- ・閉じ込めた空気に力を加えると、空気の体積や手ごたえはどうなるかについて考え、自分の予想を友達に伝える活動を取り入れた。

【成果】

- ・近くの友達に伝えることは気が楽だったようで、お互いの考えを伝えることができた。

【課題】

- ・予想が二つに分かれてしまった。「閉じ込めた空気に力を加えると」なので、体積は変わらない、手ごたえは変わらないという予想はおかしいので、めあてをしっかりと確認してから予想させる必要がある。





第三回の研究全体会について

日時 9月13日(水) 13:30~16:00

場所 図書室

テーマ「キャリア教育で変わる子ども・学校・地域」

第三回研究全体会

式次第

- ー 校長挨拶
- ー 講師紹介
 文部科学省 調査官
 長田徹先生
- ー 基調講演
 「キャリア教育で変わる子ども・学校・地域」
- ー 「おおた未来づくり」への展望
- ー 休憩
- ー 分科会協議
- ー 質疑応答
- ー 謝辞

研究部 ~役割分担~

- プロジェクター・スクリーン・名札 (・)
 - 資料印刷・次第・ホワイトボード (・)
 - 机・椅子・お茶・ポット (・)
 - 講師依頼・連絡等 ()
 - 協議会運営(司会・記録等) (各分科会の研究部)
- ※研究部の人数が足りない場合は分科会内で補う。

1学期の各学級、学年での取り組みから出てきた課題や成果をもとに長田先生の話から2学期の研究に向けて皆で考えていく機会としたいと思っています。

ぜひ、協議や質疑応答で皆さんの思いをたくさんお聞かせください。

※分科会協議では、ジャムボードを使用します。タブレットを御持参ください。



文部科学省調査官長田徹先生のご講演でキャリア教育についてまた改めて考えることができたと思います。

長田先生のお話から

「学びをつなげる・意義づける」「自己評価できるようにする」「キャリアカウンセリングを意図的に行う」
こういったことも日頃の教育活動に少しずつ生かしていきましょう！

さて、明日から授業観察が、来月には研究授業が始まります。

それぞれの分科会で協力して研究に向けて準備や実践をすすめていきましょう。

1 研究主題・キャリア教育目標

キャリア教育目標を意識した授業の実践
～全教科を通して～

令和5年度 キャリア教育目標

| | | | | |
|--|-----------------|-----------------|-------------------------|------------------|
| | 気づく力 気づく | 伝える力 伝える | チャレンジする力 チャレンジする | つなげる力 つなぐ |
|--|-----------------|-----------------|-------------------------|------------------|

2 授業観察について

(1) 分科会

低学年：1年・2年・図工・養護

中学年：3年・4年・算数

高学年：5年・6年・音楽

特別支援：五組(、サポートルーム※可能な範囲で)

※同じ部会の先生は1学期の協議会や研究授業に向けての指導案検討会の内容を生かして

授業観察(指導略案)を行う。

2学期は分科会での研究授業を中心とした研究をもとに、
各学級での指導に生かす。

(2) 授業観察の流れ ※1学期と一部変更有(下線部)

①指導略案

保存場所：研究→R5年度→指導案→2学期授業観察 ※フォーマットもこのフォルダにあります。

配布：管理職と分科会のメンバーに配布、職員室前黒板に10枚貼る(他の人が自由にとって良い)

②参観

・授業観察の日程表をもとに見に行ける授業は積極的に参観する。※分科会のメンバーのものは必ず見に行く。

・分科会のメンバー以外は職員室前黒板に貼られた指導略案を取り、参観する。

・分科会のメンバー内で記録写真を撮る。※手立てに関係するものをとるとよい。

③協議会(授業実施日当日または2,3日以内に実施)

なるべく当日の放課後に協議会を20分程度設ける。

※司会・記録は研推。メンバーの足りない場合は、記録は分科会内で補う。

協議会の視点：本時の目標とキャリア教育目標との関連、授業のポイント(見どころやこだわりポイント)、

成果(有効な手立てについて)と課題(授業をする上での困り感などでもよい)について

④報告(研究授業の報告書は授業後1週間以内、授業観察の報告書は最後の授業者の協議会終了後1週間以内)

A4裏表1枚程度に分科会全員の報告をまとめたものを作成する。

保存場所：研究→R5年度→研究だより ※フォーマットもこのフォルダにあります。

夕会で5分程度、分科会の協議会内容の報告を行う。



授業観察が始まり、研究授業についても各分科会で研究がすすんできました。
検討していること、お互いの授業を見て、学び合ったことを自分自身の実践へと生かしていきましょう。

1 研究主題・キャリア教育目標

キャリア教育目標を意識した授業の実践
～全教科を通して～

令和5年度 キャリア教育目標

| | | | | |
|--|-----------------|-----------------|-------------------------|------------------|
| | 気づく力 気づく | 伝える力 伝える | チャレンジする力 チャレンジする | つなげる力 つなぐ |
|--|-----------------|-----------------|-------------------------|------------------|

2 授業観察について

★教科の目標とキャリア教育目標をどのように授業の中で意識させているか。

★授業観察や協議会で見てきた成果や課題など。

授業観察の進め方などの詳細は研究だより12号を参照

※**研究授業の報告書**は**授業後1週間以内**、**授業観察の報告書**は**最後の授業者の協議会終了後1週間以内**
夕会で5分程度、分科会の協議会内容の報告を行う。

3 研推の役割 ※ は全体の確認役となる。

| 部署 | 目標部 | 授業部 | 計画部 |
|----------------------|--|--|---|
| 内容 | ・キャリア教育目標のまとめ ・掲示物作成 ・研究アンケート（教員用・児童用）の作成・集計・分析 | ・指導案フォーマット作成、点検 ・検討会の進行 ・協議会の進行 ・研究授業・授業観察等のまとめ | ・キャリア教育年間指導計画の作成、見直し、修正 ・未来づくり科の事例集め ・本校版の未来づくり科の検討 |
| メンバー ★リーダー ☆サブ | ★ ☆ | ★ ☆ | ★ ☆ |
| 締め切り | ・11～12月に第二回研究アンケート実施→11月22日までに作成&お知らせ ・教員向けアンケート作成&実施→12月初旬までに作成&お知らせ ・アンケートの集計・分析（冬休み中） | ・本日、低・特支分科会の指導案検討 ・10月25日の分担や流れの確認 ※ さん作成の表確認 反省会の係追加 | ・2学期のOJT研修会で未来づくり科について説明会を実施→ 日程確認 ※ キャリア教育年間指導計画の修正もその時に行う ・令和7年度本格実施に向けての準備 |

4 キャリア教育の実践例

日頃の授業や行事の中でどのように実践したか



第四回の研究全体会について

10月25日(水) 13:30~15:45

研究授業 中高学年分科会

授業者 5年2組 教諭

体育「バスケットボール」 【時間】13:30~14:15 【場所】体育館

協議会 【時間】14:25~ 【場所】図書室

テーマ「褒めポイントを共有しよう」

第四回研究全体会

式次第

- 一 校長挨拶
- 一 分科会提案
- 一 授業者自評
- 一 協議会
- 一 講師紹介

筑波大学人間系教授・教育学類長
藤田晃之先生

- 一 指導講評
- 一 質疑応答
- 一 謝辞

研究部 ~役割分担~

- プロジェクター・スクリーン・名札 ()
 - 資料印刷・次第・ホワイトボード ()
 - 机・椅子・お茶・ポット ()
 - 講師依頼・連絡等 ()
 - 協議会運営(司会 ・記録等は分科会で)
- ※研究部の人数が足りない場合は分科会内で補う。

協議会のグループ

★が司会 記録は各自もしくはグループで分担

- A ★
- B ★
- C ★
- D ★

第一回目の研究授業です。

協議会の視点

- 1 教科の目標にキャリア教育の目標の「伝える力」「気づく力」は、つながるものであったか。
- 2 教科の目標とキャリア教育目標にせまる手立ての「1環境の工夫」は有効であったか。



先生、中・高学年の先生方、研究授業お疲れさまでした。

サッカーゴールを例に挙げ、教科の目標の中にあるキャリア教育目標に焦点を当てる。そこをねらっていくと教科の目標とキャリア教育目標を同時に達成できる！というご指導を藤田先生から伺いました。

教科の目標の中にあるキャリア教育の要素を見付けていくことが大切です。

まずは、学期に一つ！ この授業観察の機会にキャリア教育の授業の実践をしっかりしていきましょう。

1 研究主題・キャリア教育目標

キャリア教育目標を意識した授業の実践
～全教科を通して～

令和5年度 キャリア教育目標

| | | | | |
|--|------------|------------|----------------|------------|
| | <p>気づく</p> | <p>伝える</p> | <p>チャレンジする</p> | <p>つなぐ</p> |
|--|------------|------------|----------------|------------|

2 授業観察の期間です。各分科会で成果と課題を分析しましょう。

★教科の目標とキャリア教育目標をどのように授業の中で意識させているか。

★授業観察や協議会で見てきた成果や課題など。

授業観察の進め方などの詳細は研究だより12号を参照

※**研究授業の報告書**は授業後1週間以内、**授業観察の報告書**は最後の授業者の協議会終了後1週間以内
夕会で5分程度、分科会の協議会内容の報告を行う。

3 研推の役割 ※管野は全体の確認役となる。

| 部署 | 目標部 | 授業部 | 計画部 |
|----------------------|--|---|--|
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育目標のまとめ ・掲示物作成 ・研究アンケート（教員用・児童用）の作成・集計・分析 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導案フォーマット作成、点検 ・検討会の進行 ・協議会の進行 ・研究授業・授業観察等のまとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育年間指導計画の作成、見直し、修正 ・未来づくり科の事例集め ・本校版の未来づくり科の検討 |
| メンバー ★リーダー ☆サブ | ★ ☆ | ★ ☆ | ★ ☆ |
| 締め切り | <ul style="list-style-type: none"> ・11～12月に第二回研究アンケート実施→<u>11月22日</u>までに作成&お知らせ ・教員向けアンケート作成&実施→<u>12月初旬</u>までに作成&お知らせ ・アンケートの集計・分析（冬休み中） | <ul style="list-style-type: none"> ・11月22日の分担や流れの確認 ※ さん作成の表確認 反省会の係追加 他に追加があるか確認。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2学期のOJT研修会で未来づくり科について説明会を実施（10月30日） ※キャリア教育年間指導計画の修正は<u>11月2日</u>まで ・令和7年度本格実施に向けての準備 |

4 前回の全体会について（気付いたこと・改善点あれば）

5 研究授業報告フォーマットは裏面を参照いただき授業報告の担当の方が全体会后1週間以内に作成してください。



研究授業報告

先日は第一回目の研究授業がありました。深井先生、そして中・高学年分科会の先生方お疲れさまでした！授業や全体会の様子を改めて報告します。

研究授業 中高学年分科会

10月25日(水)

体育「バスケットボール」

授業者 5年2組

教諭

講師 筑波大学人間系教授・教育学類長 藤田 晃之先生

1 本時の目標

- ・自己やチームの特徴を理解し、それに応じた作戦をたてている。【イ①】
- ・課題解決のために、自己や仲間の考えたことを動作や言葉、絵図を用いて、他者に伝えることができる。【イ②】

2 キャリア教育目標との関連 (キャリア気、伝)★

特に「伝える力」に焦点をあてました。楽しんで取り組んだり、試合に生かしたりするために、相手にどのような伝え方をしたらよいのかを考えながら活動をすすめました。

3 授業の様子



温かい言葉かけを意識させて作戦タイムや振り返りにおいておしえあいが活発になり楽しく学習を進めることができる。

良いことを見つけ隊を導入し他のチームの試合を見てよかったところを伝える。



【授業者自評】

伝え方を意識させ、楽しく伝えることができた。授業の時間が足りなかったため、時間配分を意識して授業を進めていきたい。

協議会の視点

- 1 教科の目標にキャリア教育の目標の「伝える力」「気づく力」は、つながるものであったか。
- 2 教科の目標とキャリア教育目標にせまる手立ての「環境の工夫」は有効であったか。

成果

- 温かい言葉かけがたくさん見られ良い雰囲気で行われていた。
- 伝え方を意識することでアドバイスにバリエーションが増え、優しい言葉が多かった。
- キャリア教育の伝える力に結びついた。

課題

- 良いところを伝える際にもっと具体的な言葉を使うように指導するとさらに学習が深まる。
- チームごとだけでなく学級全体でも共有できる時間があるとよかった。



～特支分科会 研究授業報告～

五組① 授業者

生活単元学習 おしごとたいけん～キッズニアへいこう～

◎本時の目標 校外学習で体験したことを思い出し、いろいろな仕事があることを知る。

★重点キャリア教育目標…◎チャレンジする力 ○伝える力
〈授業のポイント〉

ワークシートの活用、写真や映像による視覚支援を行うことで、見通しをもって学習に臨めるようにする。

【成果】

- ・児童の実態に合っていた。自分たちが体験していない仕事も紹介しており、目標を達成できていた。
- ・写真、視覚支援がよかった。事前準備ができていた。

【課題】

- ・自分でまとめる力をつけていくことが課題。書くこと、伝えることを丁寧に繰り返し指導していく必要がある。



五組② 授業者

生活単元学習 「キッズニアを振り返り、おすすめの仕事を紹介しよう」

◎本時の目標 キッズニアでの活動を振り返り、おすすめのお仕事について書き出すことができる。

★重点キャリア教育目標…◎伝える力
〈授業のポイント〉

自分の思いや考えを相手に伝えるため、伝えたいことを挙げさせる。

【成果】

- ・仕事を体験することを通して、自分の好きなことに気付くことができた。

【課題】

- ・見本が分かりづらく、自分で取り組めない児童もいた。全体の前で見本を示し、共有してから行うとよい。
- ・チャームで授業を始める。個別に指導をしながら全体も見る。指導案の書き方をそろえる。



五組③ 授業者

生活単元学習 「働く」 ことについて考える

◎本時の目標 仕事体験をして働くことへのイメージがどう変わったかを考える。

★重点キャリア教育目標…◎気付く力・○チャレンジする力・伝える力

〈授業のポイント〉

事前と事後を比較できるように電子黒板に映し出す。

【成果】

- ・仕事体験をした前後でイメージが変わったこと、達成感が味わえたことが意見として出ていた。
- ・経験を通して考えが変わったことを担任が上手に拾っていた。ねらいに沿った答えを全体に共有できた。

【課題】

・児童の実態によっては、事前と事後でどのように変わったかを考えることが難しかった。「体験」を「学習」につなげていくことが課題。



五組④ 授業者

生活単元学習 「働く」 ことについて考えよう

◎本時の目標 校外学習を振り返り、「働く」 ことについて改めて考えよう

★重点キャリア教育目標…◎伝える力

〈授業のポイント〉

「働く」 ことについて改めて考え、自分がイメージしたことを書いて発表する。

【成果】

- ・マイナスとプラスのイメージを色分けして提示していたのが分かりやすかった。
- ・働くことについて前向きな気持ち、夢や希望をもてたことがよかった。

【課題】

・考えさせる授業は実態として難しい。積み重ねていくことや、実態に合わせて手立てを工夫していくことが課題。



～特支分科会のまとめ～

○「チャレンジする力」と関連させ、初めてのことや初めての場所、苦手なことへの挑戦をねらいとする体験的な学習に取り組むことができた。

○身近な人へのインタビューや体験したことをまとめることで、「伝える力」を身に付けることにもつながった。

○体験を通して、働くことへのイメージが前向きなものに変わった児童が多かった。

○「体験」を「学習」に結び付けていくこと、体験を通してどのように変わったのかを考える力をつけていくことが今後の課題である。



第五回の研究全体会について

11月22日(水) 13:30~15:45

研究授業 特支・低学年分科会

⑬ 授業者 1年2組 教諭

生活科「みんなにえがおをひろげよう」

【時間】13:30~14:15 【場所】1年2組教室

意見交換会 【時間】14:25~ 【場所】図書室

第四回研究全体会

式次第

- ー 校長挨拶
- ー 講師紹介
文部科学省 調査官・東北大学 教授
長田徹先生
- ー 分科会提案
- ー 授業者自評
- ー 意見交換会
- ー 質疑応答
- ー 謝辞

研究部 ~役割分担~

- 資料等印刷(ワークシート・本時の拡大を4グループ文)・次第・ホワイトボード()
- 名札・机・椅子・お茶・ポット・青、ピンク、黄の付箋の用意()
- 講師依頼・連絡等()
- 協議会運営(司会・記録等は各グループで分担)

意見交換会のグループ

★は研推 司会・記録は各グループで分担

- A ★
- B ★
- C ★
- D ★

第二回目の研究授業です。

協議会の視点

- 1 教科の目標にキャリア教育の目標の「チャレンジする力」は、つながるものであったか。
- 2 教科の目標とキャリア教育目標にせまる手立ての「環境の工夫」は有効であったか。

※研究授業から意見交換会の流れは裏面を参照ください。

※今回は、研究授業内で先生方に当日の授業の中で、子どもたちの様子を見取りながら付箋を書いています。

【研究授業から意見交換会に向けて】

流れは以下の通りです。御確認ください。

1 研究授業内で

授業を見ながら、各自で子どもの様子を付箋に書いていってください。

青：活発に学んでいる場面→児童の姿と思考の推測

ピンク：停滞している場面→児童の姿と思考の推測

2 意見交換会内で

- ・拡大した本時の展開に付箋を貼りながら意見を交換する。
- ・それをもとにA3の表に黄色の付箋で
参考になった点・やってみいたい点
疑問に思った点・質問したい点
を書き、貼っていく。

研究授業から意見交換会に向けて

文部科学省初等中等教育局
教科調査官 坂田 徹



研究授業から意見交換会に向けて



公開授業から意見交換会に向けて

活発に学んでいる場面 水色の付箋

時刻 13:57
児童の姿 → Aさんがグループで〇〇と述べた
思考の推測 → 別の視点に気付いた

公開授業から意見交換会に向けて

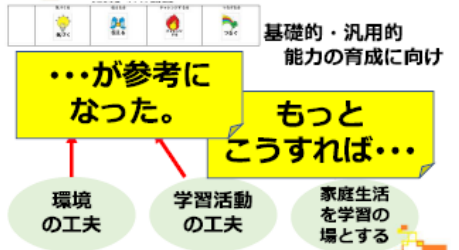
停滞している場面 ピンクの付箋

時刻13:45
児童の姿 → Bさんがグループで発言せず終えた
思考の推測 → 話についていけずあきらめた

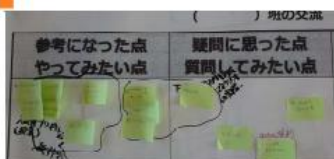
| | 学習活動 | 留意点 | 評価 |
|-----|------|-----|----|
| 導入 | | | |
| 展開 | | | |
| | | | |
| まとめ | | | |

教師が〇〇を比較させたのがよかった。
行動は思いついても、理由が言語化できない。(改善策)理由はグループで考えてみようという声かけもあり。

公開授業から意見交換会に向けて



公開授業から意見交換会に向けて



キャリア教育とは・・・

キャリアの視点で





～低学年分科会 研究授業報告～

5年2組 授業者

図工 「ワイヤーアートタワー」

◎本時の目標 針金の形を変えながら、感じたこと、想像したことから、表したいことを見つける。

★重点キャリア教育目標…チャレンジする力

〈授業のポイント〉・新しい材料の使用 ・「タワー」というテーマの設定

【成果】

- ・アルミ線という材料の魅力を子どもたちが味わいながら取り組めた。
- ・大きなテーマを設定することで、発想のきっかけにつながった

【課題】

- ・本時の目標や、材料についての説明に重点を置きすぎたため、既習の道具



2年2組 授業者

生活 「もっと知りたい たんけんたい」

◎本時の目標 前回の町探検の経験を生かし、
グループごとに町探検の計画を立てる。

★重点キャリア教育目標…つなぐ力

〈授業のポイント〉

- ・視点を絞った活動 ・目的を明確にした活動

【成果】

- ・ワークシートが子どもたちに合っていて、スムーズに活動できていた。
- ・「町の人によさ」について注目させるのは、生活科だけでなくキャリアにもつながる。

【課題】

- ・「人のこと」に焦点を当てるのは難しい。子どもたちが知りたいと思っていないと意欲につながらない。



2年1組 授業者

生活 「もっと知りたい たんけんたい」

◎本時の目標 前回の町探検の経験を生かし、各自が思い描いた知りたいことや調べたいことをグループごとにまとめる。

★重点キャリア教育目標…つなぐ力

〈授業のポイント〉・児童の思いを生かした活動 ・目的意識をもたせたグループ活

【成果】

- ・各自が思いつくことを付箋に意欲的に書いていた。
- ・付箋を用いた話し合い活動は、今後高学年でツールとして使えるようにするためにも効果的であった。

【課題】

- ・価値ある質問を子供たちが判断することは難しかった。何を基準にするのかを全体で押さえる必要がある。



1年1組 授業者

生活科 「ひろがれ えがお」

◎本時の目標

家族がしていることや、家族にしてもらっていることに関心を持ち、
家族の笑顔が増えるように自分でできることを考えることができる

★重点キャリア教育目標…チャレンジする力・伝える力

【成果】

- ・家での活動が主なので、チャレンジできるようなワークシートの活用。
- ・友達と交流して家族の大切さに気付くことができるような場づくり。

【課題】

- ・同じ色の付箋を作戰として取り組ませたほうが、今後やりやすい？



1年2組 授業者

授業報告に記載



まとめ

成果：キャリア目標を教員も児童も意識できていた。

課題：浸透できるような手立てを考える。



～高学年分科会 研究授業報告～

5年1組 授業者

体育科 「バスケットボール」

◎本時の目標

- ・自己やチームの特徴を理解し、それに応じた作戦をたてている。
- ・課題解決のために、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

★重点キャリア教育目標…つなげる力

〈授業のポイント〉

3つの目標行動（あたたかい言葉かけ、援助要請、感情制御）と「つなげる力」を意識しながらプレーを楽しむ。

【成果】

- ・3つの目標行動とキャリア教育目標である「つなげる力」を意識しながらプレーすることができた。

【課題】

- ・目標行動であったり、キャリア教育目標であったりとの価値づけの仕方。

5年2組 授業者

体育科 「バスケットボール」 ※別紙 研究授業報告に記載

6年1組 授業者

理科 「水溶液の性質」

◎本時の目標

水溶液について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決する。

★重点キャリア教育目標…つなげる力

〈授業のポイント〉

5年生までの学習や生活の中で知っていることを生かして問題解決を手立てにしていく。

【成果】

- ・今までの経験や5年生での学習を思い出しながら考えることができた。
- ・意欲をもって水溶液の差異点や共通点を見つけていた。

【課題】

- ・つかみ、見せ方が大切。子どもの「なぜ？」をもたせる発問や子どもの日常につながる導入を考えていく。
- ・安全面第一。理科室のルール。実験の手順の提示の仕方や道具（今回なら水溶液）の扱い方の徹底。





2学期の研究授業や授業観察などキャリア教育の実践ありがとうございました！

来年に向けて児童アンケート、教員アンケートや全国学力調査の質問紙、生き生き度のアンケートなどから今年度の成果や今後に向けての課題を見取って来年に生かしていきましょう。

1 研究主題・キャリア教育目標

令和5年度 キャリア教育目標

| | 気づく力  気づく | 伝える力  伝える | チャレンジする力  チャレンジする | つなげる力  つなぐ |
|------|--|--|--|---|
| 特別支援 | 自分のやるべきことに気づくことができる | 自分の気持ちや考えを伝えることができる | 苦手なことにも取り組むことができる | 自分の周りの人たちのことをもっと知りたいと思う |
| 低学年 | ともだちのよさに気づくことができる | じぶんの おもいをつたえることができる | はじめてのこともやってみようとする | じぶんのまわりのひとたちのことをもっと知りたいとおもう |
| 中学年 | 自分らしさに気づくことができる | 自分の考えを分かりやすく伝えることができる | 始めたことが最後までやり通すことができる | 自分の役割を果たすことができる |
| 高学年 | 自分らしさや相手らしさに気づくことができる | 場に応じた伝え方ができる | どんなことでも前向きにチャレンジすることができる | 人・もの・ことのために行動することができる |

2 今年度の研究の柱

- (1) キャリア教育とは何か知る
- (2) 目指す児童像の共有
- (3) 授業の中でのキャリア教育の実践

(4) キャリア教育全体計画（新設「未来づくり科」と関連）の作成

← 3学期は特にここ！

3 研推の役割 ※ は全体の確認役となる。

| 部署 | 目標部 | 授業部 | 計画部 |
|----------------------|---|--|---|
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育目標のまとめ ・掲示物作成 ・研究アンケート（教員用・児童用）の作成・集計・分析 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導案フォーマット作成、点検 ・検討会の進行 ・協議会の進行 ・研究授業・授業観察等のまとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育年間指導計画の作成、見直し、修正 ・未来づくり科の事例集め ・本校版の未来づくり科の検討 |
| メンバー ★リーダー ☆サブ | ★ ☆ | ★ ☆ | ★ ☆ |
| 締め切り | <ul style="list-style-type: none"> ・教員アンケート声掛け ・アンケートの集計・分析（冬休み中） | <ul style="list-style-type: none"> ・授業報告や今年度の授業観察や指導案等が保存されているか確認、まだの所へは声掛け | <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育年間指導計画のおおた未来づくりの部分の見直し ・令和7年度本格実施に向けての準備 |

4 キャリア教育年間指導計画について

おた未来づくりの部分の見直しをしてください。

- (1) 「ものづくり」「地域創生」の文字をを入れる。
- (2) 時数を明記する。高学年は35時間になるようにする。

5 来年度に向けて

(1) アンケートの分析

児童アンケート、教員アンケートや全国学力調査の質問紙、生き生き度のアンケートなどから分析

(2) 他校の情報収集

2月16日(金)・17日(土)に荒川区立峡田小学校で全国小学校キャリア教育研究協議会東京大会が開催

※研推1名参加可能!!

③次回の研究全体会

2月7日(水) 「研究のまとめ」 13:45~15:45

世田谷区教育委員会 指導主事 高橋 裕也先生

- 【内容】・成果と課題、児童の変容、来年度の研究について
・来年度の研究を進めるうえでのアドバイス等



研究授業報告

先月は第二回目の研究授業がありました。先生、そして特・低学年分科会の先生方お疲れさまでした！授業や全体会の様子を改めて報告します。

研究授業 特・低学年分科会

11月22日(水) 生活科「みんなにえがおをひろげよう」 授業者 1年2組 教諭
講師 文部科学省 調査官・東北大学 教授 長田 徹先生

1 本時の目標

家族がしていることや、家族にしてもらっていることに関心をもち、家族の笑顔が増えるように自分でできることを考えることができる。【思考・判断・表現】

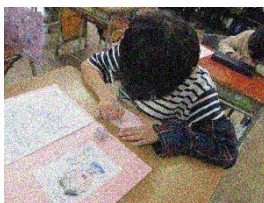
2 キャリア教育目標との関連 (キャリア気、伝)★

特に「チャレンジする力」に焦点をあてました。家庭との連携を軸に、児童が家族の笑顔のためにできることを個や友達同士で考えました。また、交流を通して視野を広げ、今後の家庭生活の充実につながるような学習展開を図りました。

3 授業の様子



考えたことをグループで発表する。



家族の笑顔が増えるように自分でできることを考えている。



カテゴリー分けをして自分が取り組んでみたいことを多面的に考えさせる。

【授業者自評】教員の指示や声掛けが多かったところもあった。今回の授業に向けて、保護者へ協力しやすかった。ただ、毎日できるかどうかこれから判断していかなければならず、できなかったとならないように家庭への協力を大事にしたい。

協議会の視点

- 1 教科の目標にキャリア教育の目標の「チャレンジする力」は、つながるものであったか。
- 2 教科の目標とキャリア教育目標にせまる手立ての「環境の工夫」は有効であったか。

成果

- 児童が挙手したくなるような授業展開。
先生の言葉づかいや所作もよい。
- 掲示物があり、児童が振り返りやすかった。
- 「～大作戦」のネーミングで、児童の意欲を引き出した。

課題

- 3つのカテゴリーについて書いたことで、分かりやすさと深まりはあったが、縛りにもなったため、1つに絞ってやってもよかったと思う。





研究アンケートへの御協力ありがとうございました。
アンケートの結果を共有します。
これらをもとに次年度の研究の計画を立てていきます。

令和5年度 キャリア教育目標

1 研究主題・キャリア教育目標

キャリア教育目標を意識した授業の実践
～全教科を通して～

| | 気づく力  気づく | 伝える力  伝える | チャレンジする力  チャレンジする | つなげる力  つなぐ |
|------|--|--|--|---|
| 特別支援 | 自分のやるべきことに気づくことができる | 自分の気持ちや考えを伝えることができる | 苦手なことにも取り組むことができる | 自分の周りの人たちのことをもっと知りたいと思う |
| 低学年 | ともだちのよさに気づくことができる | じぶんの おもいを つたえることができる | はじめてのことも やってみようとする | じぶんの まわりの ひとたちのことを もっと知りたいと おもう |
| 中学年 | 自分らしさに気づくことができる | 自分の考えを分かりやすく伝えることができる | 始めたことが最後までやり通すことができる | 自分の役割を果たすことができる |
| 高学年 | 自分らしさや相手らしさに気づくことができる | 場に応じた伝え方ができる | どんなことでも前向きにチャレンジすることができる | 人・もの・このために行動することができる |

2 キャリア教育目標について ～アンケート～

※別紙参照

3 教員アンケート

(1) 研究テーマや内容として

- ◎ 普段の授業でキャリア教育の4つの力を意識させたい
- ◎ 自分たちの学校の実態に合ったキャリア教育の実践 ← 上記二点を研究テーマに置く。
- おおた未来づくりのカリキュラムマネジメント
- キャリア・パスポートの活用 ← ○2つも研究内容に含む。

- ・ 自由進度学習
- ・ チャレンジする力、つなぐ力の育成
- ・ 伝える力の育成、話型等

(2) 教科・領域

- ◎ 絞らない方がよい、そのままよい…5 ← 今年度と同様に絞らず全教科で行う。

- ・ 絞りたい…2
- ・ 特になし…3

(3) 運営等

- ◎ このままでよい…多数 ← 今年度と同じにする。
- ・ 事前を減らして、事後の分科会を設ける ← 授業観察と同様、事後の分科会協議も行う
- ・ キャリア教育目標やテーマは年度当初に提案 ← 今年度中に決定し、年度当初に提案できるようにする。
- ・ 授業観察後の分科会の持ち方 ← 研推が主導する
- ・ 研究だより…今年同様
- ・ 協議会や講師の先生について ← 今年度と同じ講師の先生方に依頼予定



今年度最後の研究全体会です。

この一年を振り返っていただき、今年度の研究の成果と課題についてや、来年度の研究の柱の中で特に学びたいことなどについて各分科会で協議をしていただき、来年度の研究の方向性を皆で確認できればと思います。

第六回の研究全体会について

2月7日(水) 14:00~15:45

来年度の研究を見据えた今年度の研究のまとめ

【持ち物】タブレット 【場所】図書室

第六回研究全体会

式次第

ー 校長挨拶

ー 講師紹介

世田谷区教育委員会
教育研究・ICT推進課 指導主事

高橋 裕也先生

ー 今年度の研究報告

ー 各分科会協議・報告

ー 来年度に向けて 指導・助言

ー 質疑応答

ー 謝辞

研究部 ~役割分担~

○資料等印刷・次第・ホワイトボード
(. .)

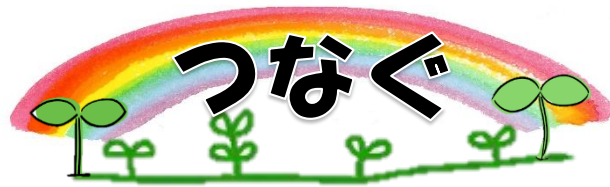
○名札・机・椅子・お茶・ポット (. .)

○講師依頼・連絡等 (. .)

○協議会運営 (司会・記録等は各グループで分担)

今回の協議は、

低・中・高・特支の各分科会で行います。



1 研究主題



キャリア教育目標を意識した授業の実践
～全教科を通して～

キャリア教育＝こどもたちが「なりたい自分」になるための教育
様々なものとのつながりを感じられるようにするための教育

2 キャリア教育目標

令和5年度 キャリア教育目標

児童の実態や
教員の願いを
もとに本校の
「キャリア教育目
標」を設定しまし
た。

| | 気づく力  気づく | 伝える力  伝える | チャレンジする力  チャレンジする | つなげる力  つなぐ |
|------|--|--|--|---|
| 特別支援 | 自分のやるべきこと に気づくことができる | 自分の気持ちや考 えを伝えることが できる | 苦手なことにも取 り組むことができ る | 自分の周りの人た ちのことをもっと 知りたいと思う |
| 低学年 | ともだちのよさ に気づくことが できる | じぶんの おもい をつたえること ができる | はじめての こと も やってみよう とする | じぶんの まわり の ひとたちの ことを もっとし りたいとおもう |
| 中学年 | 自分らしさに気づ くことができる | 自分の考えを分か りやすく伝えるこ とができる | 始めたことが最後 までやり通すこ とができる | 自分の役割を果た すことができる |
| 高学年 | 自分らしさや相手 らしさに気づくこ とができる | 場に応じた伝え方 ができる | どんなことでも前 向きにチャレンジ することができる | 人・もの・ことの ために行動するこ とができる |

3 授業研究・研究全体会

(1) 提案授業：6年2組

授業者：



(2) 研究授業：5年2組

授業者：



(3) 研究授業：1年2組

授業者：



(4) 各分科会での授業研究：1学期、2学期（一人、年間2回ずつ）

(5) 研究全体会：キャリア教育についての講演会や協議会を通して教員がキャリア教育について学んだり考えたりする場を設けた。

4 成果と課題

成果

- ◎キャリア教育目標を教員間、そして児童と共有することができ、目標が浸透してきた。
- ◎4つの力が少しずつついてきた。
- 特に伝える力は児童も教員アンケートからも達成度が高い。

課題

- ◎4つの力を系統的にかつ各教科の単元目標を前提にどのように普通の授業とリンクさせていくかは今後も研究していく必要がある。